

# 弓道ながの

第72号

発行：長野県弓道連盟  
会長 外園公毅  
〒399-4117  
駒ヶ根市赤穂10214-4  
TEL0265(83)5206  
編集：県弓連  
印刷：成進社

## 巻頭言

### 令和の日本弓道はどこに向うか

長野県弓道連盟会長 外園 公毅



昨年五月に新しい元号「令和」がスタートした。誰もが天変地異のない平和な世を願ったはずである。しかしながらその五月には全国的に記録的な暑さが始まり、五月末には北海道で39.5度を記録している。また台風により、各地でゲリラ豪雨に襲われ、遂に十月には台風十九号による大雨で長野県も千曲川の氾濫で大きな被害が出た。その影響と次の台風来襲のために一週間後の即位の礼のパレードは十一月に延期になるという皮肉なこととなり、令和もなかなか厳しい、安穩とは生きておられないぞと覚悟させられることとなった。

全日本弓道連盟も令和元年に創立七十周年を迎えると同時に、これまでとは全く異なる新体制が発足した。内閣府の指摘に依って、組織運営と弓道事業の運営の役割を分業するという考えでの新体制である。役員・評議員のスリム化、弓道の実力でなく、法人運営にたけた人材の登用ということで大規模な組織改革がなされた。新役員・評議員は月刊「弓道」十月号に掲載されているが、ほとんど知らない人である。これまで評議員は地連会長(四十七名)であったが、新評議員は十五名とスリム化され、学識経験者が十名を占めている。役員も十七名中十二名が学識経験者である。再任者は四名にとどまっています。県弓連からも松島貞治副会長が理事に選任されている。審査委員と講習会の講師は厳密に分

ける、兼ねることができないとしている。つまり審査委員は講習会の講師にはなれない、逆もしかりである。このことは何を意味しているのか、兼ねることによってどういう弊害があるのか、もう少し分かるように説明すべきである。

矢羽の問題も「今期末を目処に終結を」と三、四年前から言われているが、今どのような経緯になっているのか、どこにどのように決着するのか分かっていない。それ故に今年度の中央の講習会はすべて中止となったが海外セミナーは行われており、また審査は全弓連の公益目的事業の根幹であるからということである。何だか釈然としない。

来期の全弓連の事業計画も遅れ遅れになっていて、県弓連の第一回常任理事会に間に合うかと心配していたが、十一月末にやっと届いた。来期は中央の講習会事業は予定されている、ということ。矢羽の問題も今期末には収束に向かうと期待したい。

矢羽の問題、公正・公平な審査の実施、地連との関わりをどうするの

か、等々いろいろな問題を抱えている。日本弓道はこれからどこに向かおうとしているのか非常に重大な時期に来ていると言える。日本の伝統的文化としての弓道、武道としての弓道をどのようにして継承していくのか肝心なところが論じられず、やれ公益法人としての望ましい組織がどうの、やれガラス張りの組織を、と強調されてもどれぐらいの弓道人が理解しているか首を傾げたくなるのは私だけだろうか。弓道を極めたいと真摯に精進されている方々が惑わされないような方向に向かってもらいたいと切に祈っている。





### 教士六段 牧野 ふみ江

十一月一日、東京定期中央審査会へ朝一番の新幹線に乗り込み無事会場に到着いたしました。いつもながらの混雑した会場内で場所を確保したら直ぐに弦を張り準備は完了。

開会式で岡崎範士から「今日は思いつきり引いて下さい。中りなど考えず、思いつき、大きく伸び伸びと…」その言葉がとても心に響き、言われた通り思いつきりやろう!と心に決めました。

九月と十月に全日本弓道選手権に参加できたものの一本が決められず、上位には入れませんでした。自分としては昨年より少しだけ成長を感じられた大会でした。また全国から集まった先生方から見取

り稽古ができる事も確実に私の糧となっております。まだまだ称号も持たない頃の私が、ある女性の鋭い離れに驚いた事や入場からの体配の美しさ、色々な面で刺激され、自分もそうなりたいたったものです。

弓道との出会いは平成十八年「広報佐久」内に載っていた佐久市弓道教室に参加



した事に廻ります。

会場は駒場公園弓道場です。周りには美術館・図書館・プールやテニスコートが併設されており、家族で良く訪れた場所でした。教室では先生方・会員の皆様が丁寧に教えて下さいました。月例会にも参加するようになり、この弓道場で基本をしっかりとして学ばせていただいたと心から感謝しております。しかしながら早寝早起きの私としては夜のお稽古はかなり負担と感じていた矢先、山の上にあった

臼田弓道場が老朽化に伴い里に新築されました。その道場は自宅と職場の丁度中間地点にあります。今はその道場で、お昼休みを利用し一人稽古をしております。

今回論文の提出にあたり、教本を読み直し今まで部分的に覚えていた言葉を整理しながら仕上げ提出いたしました。弓道人としての心構えを見つめ直しこれからも弓道を楽しみ、先生、先輩、仲間と和敬の気持ちを持って接し謙虚に学びつづけ、人格を磨いていきたいと思っております。基本に忠実で自分の射を表現できるように修練を続けて参ります。

改めて、ご指導いただきました沢山の先生方、弓友に感謝を申し上げます。

### 弓仲間紹介

長野県石村田高校弓道班

参段 井出 遥

私が弓道を始めてからまだ三年しか経過していないのが信じられないほど充実した高校生活でした。

弓道に憧れて入班し、最初は弓にも触れず同じことの繰り返しで次第に休みがちになっていきました。そんな状態が秋まで続きましたが新人戦で偶然チームに入れて先輩に県大会へ連れて行ってもらいました。この経験が間違いなく弓道に熱中するきっかけだったと思います。

私が初めて悔しいと思ったのは、一年のときの国体一次予選です。結果は八射残念でした。まだ来年もある、と先輩に声をかけてもらったことがとても悲しかったです。そこからは只管稽古を重ねました。毎週土曜日一般的な道場で指導をしていただける場があり、毎週かかさず参加しました。上を目指したいと思ったときに、そ



のような環境がありとても感謝しています。その甲斐あって二年のときには三年生のチームに入れて、新人戦でも個人で北信越まで駒を進めることができました。しかし三年生になってからは思うように的中があらがらず春の大会も県まで行けず、また国体最終選考まで進んだものの選手にはなれませんでした。引退後は参段をいただいたり、支部の例会に参加させていただいたりして周りの人との繋がりを感じ一年の頃の楽しさを思い出しました。

『弓道で何を学ぶか。』

弓道を通して高校三年間では人間力を高めようと努力してきました。今後も弓道を通して多くのことを学び、自分の人間性を磨いていきたいです。



# 全日本選手権五位入賞

教士六段 平澤 敏弘

九月二十日から二十二日に伊勢神宮弓道場にて開催された、天皇盃 第七十回全日本男子弓道選手権大会にて五位入賞を果たしました。全国大会での入賞は、二〇一七年の愛媛国体以来二年ぶりとなり大変嬉しく思っています。



懸けた遠近競射を行い、私の矢所はあまり良くありませんでしたが、他の選手より僅かに的心に近く最後は運の力で勝つ事ができました。決勝戦は、十射皆中者が三人で例年になくレベルが高く、その三人共私と同世代で国体でも競い合うライバルでした。優勝決定射詰の際も三人はとても堂々と引いていて、私の不甲斐ない射とは雲泥の差を感じ、自分の射で入賞したことが情けなく思えました。次こそは大舞台でも自分の目指す弓が引けるように努力したいと思っています。

今回の全日本選手権は長野県から四名が出場できましたので、四人で移動や宿泊など行動を共にしましたが、私の勘違いで他の選手の方に大変迷惑をかけて助けていただく事があり、とても感謝しております。また飯伊支部や県弓連の多くの先生方に「指導いただいた結果入賞する事ができました。ご指導いただきました先生方には大変感謝しております。今後は更に高い目標を目指して日々精進し続けたいと思います。

再び優勝を目標に臨みましたが、序盤の二本目、三本目を外してしまい、その時点で入賞すら絶望的だと思えました。しかし、諦めたらそこで試合終了と思いきや最後の一本まで気持ちを切らさず何とか二本抜きの八中で終える事ができました。その後、八中者三人で五位入賞の一杯を

## 県立武道館建設現場を見学して 長野県弓道連盟副会長 奥山 誠治

十一月十一日(月)佐久市猿久保に建設中の県立武道館を湯澤理事長と見学会に参加してまいりました。

長野県武道連絡協議会会長 萩原(清原)の主催で行われました。午前中建設現場の見学。地元県議七、八名の参加者と共に建設関係責任者の案内でヘルメットをかぶり建物へ、入り口からスロープを登り主道場へ。柔剣道で六、九面可能、面積2,200㎡。多目的ホールとして(音楽イベント時)三千人規模の収容可能との事です。天井は木材と鋼材のハイブリット屋根架構、床は県産のアカマツ材と自然エネルギーの活用で「太陽光発電、雨水利用、地中熱利用」を重視していました。

その後道場1、2の競技場へ。各3面の広さ面積880㎡があり、道場1は畳敷、道場2は県産の杉板張り。見学をしながら県議の人達と話の中でこの武道館の中には弓道場はありませんが他県の施設には仮設で使用しているところもありますのでその様な機会の際は使わせて頂きたいと要望お願いをしました。ひと回り見学をして午前の部を終りました。

昼食を挟み午後から県教育委員会事

務局スポーツ課長、職員の武道館の紹介と説明が行われ、冒頭佐久市の柳田清二市長の挨拶で県立武道館を「武道の聖地として、長野県のスポーツによる地域振興の中核的拠点となる施設にして有効活用して頂きたい」と。

萩原清会長からも「立派な勉強部屋ができたが成績が上がらない様なことはしたくない」とのお話もありました。

弓道会からのお願いとして湯澤理事長よりの発言で県営飯田弓道場の国体選手の使用料減免について現状説明と要望のお願いをしました。

萩原会長も弓道は国体でいちばん点数を稼いでいるのでその点については県に改善の要望をするとの答えを頂き力強く感じました。

まだまだ使用料金、申込方法等決定していない点もありますが来年三月二十六日の竣工式を目指して工事は急ピッチで進んでいます。雑駁ではありますが報告と致します。



# 令和元年 中級者向け講習会

上伊那支部 五段 矢島 正男

昨年、下諏訪町弓道場で行われた中級セミナーと同様、我が家にとつては記念日に当たる九月二十二日に、駒ヶ根市弓道場において中級者向け講習会が行われました。主任講師に教士七段 新津一夫先生、講師に教士六段 松島貞治先生、指導部より教士六段 中村美穂先生・錬士六段 上條寛先生をお迎えし、全県から四段・五段の四十七名の受講生が参加しました。

はじめに、外薮公毅長野県弓道連盟会長よりご挨拶をいただきました。その中で「最近の錬士・五段審査の合格率が低迷していることを考慮し、今年はこの段位に厚く講習会を設定している」旨のご説明とともに、「日頃の練習を見るにつけ、あの程度の練習で受かるはずがない…」との厳しいお言葉を頂戴して講習会が始まりました。矢渡は松島先生が射手を、受講生が介添を務めて行われ、その後のご指導では、  
・介添は、すべての動作を射手に合わせ、たとえば正座のタイミングは射



手にピタッと合わせること  
・射手が射位に進む際、介添の目線が射手の動作を追い越すと介添が射手に指示しているように見えるので、決して追い越さないこと  
といった、射手を尊重する意識と、それに伴った動作とはどうあるべきかを教えていただきました。  
次に審査の間合いでの一手行射を行いました。  
全員の行射が終わり、振り返りの

時間には、松島先生より着物についてのご指導をいただきました。時季に応じた種類の着物を選ぶこと、使える範囲が広い単衣をまずは準備すること、袴が長過ぎることで審査に通らないこともあるので気をつけること等、細やかな心遣いをご指導いただきました。

更に行射の講評では、新津先生と松島先生から、

- ・右足を半足引く際に左足先が浮かないように意識すること
- ・いったん足踏みしたら決して動かさないこと(動く人が多かった…)
- ・会で矢が爪先に降りてくれば(足踏みと胴造りが正しければ)中るのであり、鉄棒の懸垂で鉄棒に身体を近づけるように、目通りから身体(肩線)を矢に近づける(矢を身体に近づけるのではない)こと
- ・いつも同じリズム・時間で行射できるように修練すること、その中で会は4秒または段位以上を保つこと
- ・離れを作るのではなく、会では離れよりも残身を意識し、残身に向かって伸び合せて放つこと
- ・残身が射のすべてを現すので、良い残身となるよう射を修正すること
- ・打起しから大三での手の内の要点
- ・失は、やってしまったらチャンスと  
考え、どんな状況でも果敢に挑戦す



ること  
などなど多くのご指導をいただきました。  
休憩の後は四つの班に分かれ、受講生全員が四人の先生方に射技をご指導いただきました。私はこのところ腰の据え方に悩んでいましたが、悩みながらの射を見事に見抜かれており、ご指導をいただく中で解が見えてきました。

秋の一日、講師の先生方の篤い思いと、受講生全員の上達したいという純粹な気持ちに満ちた、充実した時間を過ごすことができました。心地よい疲れとともに、すべての皆様への感謝を持って帰路につきました。ありがとうございました。

# 第七十四回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」

## 国体を終えて

清水 北登

国体三日目、練習の場所取り(予約ボードに札を貼る)をするため開場前に入り口に並びました。一時間以上前に着いたため流石に誰もいないだろうと意気揚々と入り口に行ったら既に愛媛県の方が並んでおり、天皇杯をとる県は気合が違うなど…。それでも二番手だから良い位置を取れるだろうと樂觀視しておりましたら、いざ門が開くと後ろに並んでいたA県のマダムが人をかき分け予約ボードまで猛ダッシュ。その後は秩序なく早い者勝ちでした。国体五年目、そんなところで洗礼を浴びながら考えたことは、長野国体では並んだ順で予約を取れるシステムにして欲しいということと、今まで先生方に大いに支えられていたということです。今年もコーチ陣の先生方、連盟の皆様にご支援いただきなんとか入賞までたどり着きました。本当にありがとうございます。来年は下半身を鍛え直して飛躍の年にしたいと考えています。

## いばらき国体を終えて

小田切祐典

茨城国体は、成年男子近の八位入賞という結果で終わりました。悔しさの残る国体でした。個人的に調子があまり上向かず、本当に苦しい一年になりました。それでも北信越予選をギリギリで通過して、本国体の最後まで戦い抜くことができたのは、県内弓士の皆さんの応援と、理解ある家族の支援と、強化部の先生方のサポートと、一緒に組んでくれた二人との絆のお蔭です。いつもありがとうございます。来年に向け、冬の稽古に励みます。

## 葛藤、錯綜、呻吟の中の国体

蟹澤 史弥

今年で二年目となる国体は私にとって大きな試練の連続でした。二年目ほど怖いものはない。中てることの怖さ、離すことの怖さ。練習でできていたことが本番になると全くできなくなる。あの場所に入った瞬間のあの感覚は未だに脳裏から離れません。しかしあの場所に立ち最後まで戦い抜くことができたのはたくさんの人たちの支えがあつてこそだと思えます。国体は一

人では戦えない。今年はいくさんの事を学びました。もつともつと成長して来年に繋がるようにこれからも日々練習に励みたいと思えます。



## 一本一本の積み重ね

飯野 葵

今年はいくつから続けていた事が実ったかな、と思える年でした。それは「一本一本の積み重ね」です。一本ずつ確実に今できる事を最大限に発揮することだけを考えました。その結果が近似的予選での八射皆中に繋がったのだと思います。しかし結果には満足していませんし課題も山積みなので稽古を重ねます。今年もメンバーや強化部の先生方はもちろん、多くの方の支えがあり国体を終えることができました。本当

## 弓道漬け

木下 佑紀

弓道を再開して二年、初出場の国体は苦しい一年間でした。チームに馴染めず、中りもついてこず辛い毎日でしたが、葵さんと藤澤さん、先生方に支えてもらい北信越優勝と本国体遠的四位になることができました。個人としては思うような結果を残せず悔しいですが、今できる精一杯の弓を最高の舞台で引くことができたので後悔はしていません。この経験を糧にこれからの人生を歩んでいきたいと思えます。応援ありがとうございます。

## 国体と私

藤澤 敏恵

国体予選に参加するようになり今年で五年目。時には一次予選落ちの年もありました。それでもあきらめずに挑んだのは何故だったのかは自分でも分かりません。そして選手になり二年。アラフィフの私が、娘の様な二人と同じ目標に向かって弓を引き、切磋琢磨しながら結果を残すことができませんでした。指導していただいた先生方、ありがとうございます。長野国体までとは言いませんが、もうしばらく「最長・藤澤」国体を目指します。

# 令和元年度 祝射会

令和元年11月17日(日)  
於:塩尻市弓道場



## 祝射会招待者

《敬称略》

平成30年度長野県入ホッポ振興功績者表彰

・有功章 山浦 博(佐久)

令和元年度優秀支部表彰

・上伊那支部 萩原 秀紀

入賞者

○第74回国民体育大会(茨城国体)

・成年男子近的の部 8位

清水 北登(佐久)

小田切祐典(小諸)

蟹澤 史弥(上伊那)

・成年女子遠的の部 4位

飯野 葵(諏訪)

木下 佑紀(上伊那)

藤澤 敏恵(長野)

大口 晴男(長野)

監督 永藤 聡(須高)

○第66回全日本勤労者弓道選手権大会

5位

塚田 混巳(佐久)

山崎 征樹(松本)

横澤 志織(長野)

監督 大日方正明(長野)

○第16回全国中学生弓道大会(女子団体 2位)

個人7位

峰村百合亜(長野日大)

金井 飛奈(長野日大)

矢花さや香(長野日大)

新井 舞袖(長野日大)

監督 哲(長野日大)

○第70回全日本男子弓道選手権大会

5位

平澤 敏弘(飯伊)

○第37回全国高等学校弓道選抜大会

男子団体 5位

佐々木駿斗(塩尻志学館)

多賀 結人(塩尻志学館)

井原 迅(塩尻志学館)

松村 優太(塩尻志学館)

監督 征矢 理啓(塩尻志学館)

高木 涉(文化学園長野)

監督 山本 明子(文化学園長野)

昇段・昇格者

・七段 久保田智恵(長野)

・教士 牧野ふみ江(南佐久)

・錬士 森川 明男(上伊那)

保木野克海(長野)

林 英彦(中高)

山田マサエ(大北)

吉江 美佳(松本)

退任役員

小松 哲(飯伊)

## 私と弓道

大北支部 五段 谷 敏子

弓道始めて十二年目、私と弓道

との出会いは六十二才の時、大町市

の弓道教室のお知らせでした。「こ

んな年でもいいですか?」と電話す

ると「皆さん喜ぶと思いますよ」の

言で決心しました。弓に触るのも初

めてでしたので、「この人ものにな

るだろうか?」と周りの方の声もあ

りました。遅く始めたのだから少

でも多く練習したいと思い、月水金

の夜(まだ仕事をしているので)と土

日の週五回道場に通っています。山

崎先生、守屋先生をはじめ道場の皆

さんのおかげで今があると思ってい

ます。感謝あるのみです。そして何

よりうれしかったのは、着物を着ら

れるという事でした。年をとったら

着物を着たいと思っていたので願

いがかかったという事です。

自分の力を試すために大会に出か

けます。年令も男女の区別もなくの

に向かう、これも弓道の魅力の一つ

ですね。大会でお会いする先生方、

弓士の皆さんとの出会いも心の糧と

なっています。「又あの白髪の婆さ

んが来ているな」と思われている気



良い時も悪い時もあり弓の道  
積み重ねつつ手さぐりの道

「:中り外れではなく妥協を捨て、  
唯一心に引こうと臨みました。」と教

士七段の審査に臨まれたことを読

み、審査に向かう心の修練をしなけ

ればと痛感しました。弓と出会えた

ことに感謝しながら、いい射のため

に稽古をしたいと思えます。

# 高校生を取り巻く状況

長野県弓道連盟副会長 八角 裕之

前号に続き、表題につきまして書く機会を与えていただき誠にありがとうございます。今回は『長野県高等学校の運動部活動方針』について、会員の皆様にも知っていただきたいと思ひます。

私の主観ですが、かつては「一日稽古を休むと、元に戻るのに三日かかる。」と言う顧問もいたように、休みなく活動する弓道部が多かったように思っています。私が最初に顧問に就いた学校も、盆と正月以外は練習でした。それがいつからか、適度に休養日を入れないと生徒たちが体力的にも精神的にも持たないと感じるようになってきました。最初は「生徒が弱くなくなってきた。」と思っていました。今は「昔は生徒に無理させすぎていたかな。」と考えています。

さて、平成三十年三月にスポーツ庁から『運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』が出されました。生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築するという観点に立ち、地域や学校の実態に応じて、運動部活動が多様な形で最適に実施される

ようにと策定されたものですが、休養日などについても踏み込んだ内容になっていました。それを受けて、平成三十一年二月に長野県教育委員会から『長野県高等学校の運動部活動方針』が発表されました。

方針のねらいは、生徒の健康面への配慮、生徒に部活以外の時間を持つてもらおう、教職員の時間外勤務縮減や健康管理と言われています。体制整備をはじめ様々な方針が示されていますが、その中に「適切な休養日等の設定」という項があります。基準として別枠(下段参照)のように述べられています。

この方針に則り、毎年度に各校で『学校の運動部活動に係る活動方針』を策定します。各校で表現の違いはありますが方向性は同じです。この四月から、すべての弓道部でそれに沿った活動を行っています。先日、県大会で上位に入賞した学校に伺ったところ、ほぼ基準の通り活動をしているようでした。「ほぼ」と書いたのは、今のところ平日の休養日があり取り取れないとのこと。その分、

この後冬場を中心に休養日を増やしていくとの話でした。

今回もまた報告に終始して、何の提案もなく申し訳ありません。変わりゆく高校弓道部の様子について、その一端を知っていただけたら幸いです。今回は「部員数」と「練習時間」に絞りましたが、変わりゆく状況は枚挙にいとまがありません。先日もジュニア部の中で「最近進学や就職のために、検定や資格取得試験を義務的に受けさせる学校が多い。その準備時間や検定料などで生徒の負担が増えてきている。」や「スマホ代の支払いのために、部活をやめてアルバイトに走る生徒が出てくる。」などが話題に上がったところです。そんな様々な状況の中で、真摯に弓道に向き合っている生徒たちがいます。会員の皆様におかれましては、引き続き中学生・高校生の弓道の活動につきまして、格別なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

○学期中は、原則として、週当たり2日以上休養日を設ける。(平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日(以下「週末」という。)は少なくとも1日以上を休養日とする。週末に大会参加等で活動した場合は、休養日を他の日に振り替える。)

○長期休業中の休養日の設定は、原則として、学期中に準じた扱いを行う。また、生徒が十分な休養を取ることができるとともに、運動部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間(オフシーズン)を設ける。

○1日の活動時間※は、平日及び学校の休業日(学期中の週末を含む。)とともに、長くとも3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効果的・効果的な活動を行う。  
なお、大会や練習試合等で、基準とする1日の活動時間を上回る場合には、他の日の活動時間を調整するなど、週当たりの活動時間にも留意する。

※本方針における「活動時間」とは、身体的な活動を行う時間であり、会場への移動・準備・片づけ・ミーティング・試合前後の休憩・見学は含まない。

# 大会結果

## 無相大師奉誓弓道大会(高校の部)

○令和元年9月8日(日) 中野市弓道場

参加人数・高校405名

個人の部(8射)

▲男子  
1位 湯本恵比寿(長野西)  
2位 田口 維吹(長野日大)  
3位 北村 岳(文化学園)

▲女子  
1位 篠田 凜(飯山)  
2位 小林 由季(長野日大)  
3位 黒岩 美穂(市立長野)

▲男子  
1位 須坂C(湯本竜也、倉石龍、田中逸登)  
2位 長野A(田口恭五、児玉大地、神田翔仁)  
3位 長野高専(関澤遼、小島茉成人、宮澤公輔)

▲女子  
1位 飯山D(市川和、富井美空、篠田凜)  
2位 長野B(宮下紗英、長澤佳子、大口裕子)  
3位 長野西C(西原優、堀田夏実、大川桜)

個人の部(共通)(10射)  
1位 藤澤 一樹(旧・豊科高校)  
2位 代田 大地(志学館男子A)

合計275名

## 第61回塩尻市武道大会

○令和元年9月15日(日) 塩尻市弓道場

参加人数・中学8名、高校198名、一般69名、合計275名

個人の部(共通)(10射)  
1位 藤澤 一樹(旧・豊科高校)  
2位 代田 大地(志学館男子A)

合計275名

## 第69回弓道岡谷大会

○令和元年9月23日(月・祝) 岡谷市総合体育館弓道場

参加人数・高校59名、一般43名、合計102名

個人の部  
▲高校  
1位 宮坂 詩織(東海大諏訪)  
2位 白川 諒太(諏訪二葉)  
3位 五味 琴音(諏訪二葉)  
4位 西澤 遥希(諏訪二葉)  
5位 大畑 諒悟(諏訪二葉)

▲一般  
1位 井出 克彦(塩尻)  
2位 大場 空乃(流離)  
3位 岩原 祐貴(諏訪遠的協会)

▲高校  
1位 林 義徳(混合C)  
2位 高平みさと(大町岳陽女子B)  
3位 丸山 遥(志学館女子A)

▲中学  
1位 混合A(百瀬奈津、越取桂一、佐藤みなみ)  
2位 安曇野JSCB(小原晴太、荻原燈也)  
3位 安曇野JSCA(丸山玲奈、増田采音、熊崎ゆい)

▲高校  
1位 志学館男子A(代田大地、内川瑞貴、倉沢達也)  
2位 志学館女子A(藤村琳、丸山遥、宮沢芽依)  
3位 都市大A(荻野大樹、小宮れい、矢澤輝)

▲一般  
1位 佐久(平塚祐介、大橋歩実、水間貴大)  
2位 混合C(小山義弘、林義徳、笠井信夫)  
3位 安曇女子(丸山真弓、牛越和枝、松尾滯)

○令和元年10月14日(月・祝) 松本市弓道場

参加人数・高校164名、一般38名、合計202名

個人の部(近的8射)

▲高校  
1位 坂井 歩(松商女子C)  
2位 小澤 章太(松商男子A)  
3位 北澤 奈美(松商女子A)  
4位 寺沢 真拓(松商男子A)  
5位 高橋 悠生(縣陵男子C)

▲一般  
1位 青木 直美(総務)  
2位 野知里信子(しらさぎ)  
3位 深澤 健二(松本城)  
4位 土屋 文孝(チームM)  
5位 古居 裕樹(信州大学医学部C)

▲高校  
1位 松商男子A(小澤章太、寺沢真拓、三浦颯悟)

▲高校  
1位 水澤 舞(御代田・丸子)  
2位 佐藤 絢飛(eamあやひこ)

▲高校  
1位 諏訪二葉A(日比谷広翼、川口大希、西澤遥希)  
2位 東海大諏訪(篠原和真、宮坂詩織、武井響也)  
3位 諏訪二葉Z(白川諒太、金丸倫太郎、宮下翔太)

▲一般  
1位 流離(蟹澤契太、蟹澤史弥、大場空乃)  
2位 諏訪遠的協会(岩原祐貴、上野曜、市川隆光)  
3位 上田城(竹内博敏、坂口光広、手塚信幸)

# 明けましておめでとうございます

弓道合宿予約随時受付中!

## 帝産ロツヂ

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山1003

HP: <http://www.teisanlodge.com/>

ご予約・お問い合わせは0267-98-2861

### 野辺山洗心弓道場

近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)

12人立2ヶ所

遠的道場 1ヶ所



第75回県下南信弓道大会

- 令和元年10月20日(日) 県営飯田弓道場  
参加人数・120名
- 個人ノ部
- ▲高校一年生の部
- 1位 伊藤慎一郎(阿智B)
  - 2位 奥村 成美(風越E)
  - 3位 中島 隼(風越C)
  - 4位 櫻井 佳奈(OIDE長姫B)
  - 5位 小池 春樹(風越C)
- ▲一般
- 1位 総務(岩垂暁子、青木直美、中西政信)
  - 2位 しらさぎ(町田真由美、野知里信子、高際和美)
  - 3位 もみじA(高村政克、大山綾、神通川浩一)

個人ノ部

- 1位 宮島 苑子(上田)
- 2位 横澤 志織(善光寺)
- 3位 保木野克海(千曲)
- 4位 持田 武二(佐久)
- 5位 小林 恒太(塩尻)

2020年度ねりんピック岐阜大会予選会

- 令和元年10月26日(土) 長野市運動公園弓道場  
参加人数・34名
- 1位 金原 正(佐久)
  - 2位 関 正幸(松本)
  - 3位 小池 君男(長野)

ねりんピック岐阜2020

- 派遣選手・交代選手
- 金原 正(佐久) 小池 君男(長野)
  - 笠原 武明(飯伊) 石井 隆子(上小)
  - 小池 正夫(諏訪) 高木 涼子(上小)
  - 鈴木 清重(上伊那)

第17回千曲市長杯弓道大会(一般ノ部)

- 令和元年11月3日(日) 千曲市弓道場  
参加人数・24名
- 個人ノ部(8射)
- ▲一般
- 1位 矢真飛(中村健二、坪井優、平澤敏弘)
  - 2位 混成座光寺・竜丘(棚田京子、木村匡房、塩澤忍)
  - 3位 混成喬木・上飯田(牧内和宏、松枝敏広、小松哲)

第17回千曲市長杯弓道大会(高校ノ部)

- 令和元年11月3日(日) 千曲市弓道場  
参加人数・282名
- ▲男子
- 1位 長野日大B(田口維吹、狩野竜、小林滉征)

第31回松本城奉射弓道大会

- 令和元年11月3日(日・祝)  
松本市弓道場  
参加人数・高校147名、一般117名、合計264名
- 個人ノ部(近約8射)
- ▲高校男子
- 1位 成田 拓末(松商B)
  - 2位 小澤 章太(松商A)
  - 3位 寺沢 真拓(松商A)
  - 4位 櫻井 悠大(蟻ヶ崎B)
  - 5位 瀬脇 岳(岡谷工業A)
- ▲高校女子
- 1位 市川 千乃(松商B)
  - 2位 岩垂 知咲(深志A)
  - 3位 磯部 馨(深志A)
  - 4位 社本 歩夢(松商A)
  - 5位 飯嶋 詩菜(豊科A)
- ▲一般
- 1位 谷 敏子(混合E)
  - 2位 山口 将平(信州大学A)
  - 3位 岩村 拓生(射幸心)
  - 4位 松井 幸彦(混合C)
  - 5位 檀上 真成(信州大学D)
- ▲女子
- 1位 長野日大C(小柳穂乃花、峯村桃子、堀川紗椰)
  - 2位 屋代C(中山香穂、築田桃果、山口瑛那)
  - 3位 長野日大B(吉味祐里、小野明香里、松永真衣)

ねりんピックの国和歌山2019

- 令和元年11月9日(土) ~ 11月11日(月)  
田辺市立弓道場
- ▲長野県 16位 決勝トーナメント進出

〒380-0935  
長野市中御所1-12-5  
TEL ▶ 026-228-3443  
FAX ▶ 026-223-4855  
通常 ▶ 8:00~18:00  
日・祝 ▶ 8:00~17:00  
定休日 ▶ 月曜日

全日本弓道具協会会員



謹賀新年

遠的ダンボール白黒 (79cm・100cm)  
遠的ダンボールカラー (100cm)  
遠的紙カラー貼り合わせ (100cm)



有限会社 中島弓具店

URL ▶ <http://www.nakajima-kyugu.com>

E-mail ▶ [info@nakajima-kyugu.com](mailto:info@nakajima-kyugu.com)



第49回北信越弓道選手権大会

令和元年11月10日(日)

小松市弓道場

団体の部

1位 長野県 14点

有段者の部

1位 小田切祐典

2位 蟹澤 契太

1位 飯野 葵

2位 藤澤 敏恵

称号受有者の部

1位 清水 北登

第62回信州上田城弓道大会(一般の部)

令和元年11月10日(日)

上田市城跡公園弓道場

参加人数:77名

個人の部(8射)

1位 塚田 湜巳(佐久) 8中

2位 水澤 舞(御代田) 8中

3位 進藤 高(甲府) 7中

4位 野川 佳乃(長野大学) 7中

5位 大月 颯真(信州大学) 6中

団体の部(24射)

1位 佐久A(水間貴大、平塚祐介、塚田湜巳) 20中

2位 信州大学C(大月颯真、柴田惇之介、渡邊巧) 16中

3位 甲府A(進藤高、古屋仁、豊田浩正) 15中

昇段昇格者

北信越地区 臨時中央審査会

鎌士の部 令和元年9月7日

山田マサエ(大北支部)

関東地区 臨時中央審査会

鎌士の部 令和元年9月13日

吉江 美佳(松本支部)

東京 定期中央審査会

教士の部 令和元年11月1日

牧野ふみ江(南佐久支部)

関東地区 鎌士臨時中央審査会

鎌士の部 令和元年11月16日

小田切祐典(小諸支部)

訃報のお知らせ(敬称略)

長野県弓道連盟 長野支部

教士七段 中島 勁(93歳)

令和元年9月26日(木)

ご逝去されました

長野県弓道連盟 上小支部

鎌士五段 安藤 教光(87歳)

令和元年10月2日(水)

ご逝去されました

長野県弓道連盟 飯伊支部

四段 伊藤 龍夫(78歳)

令和元年10月3日(木)

ご逝去されました

長野県弓道連盟 飯伊支部

教士 村松 康尾(95歳)

令和元年11月7日(木)

ご逝去されました

長野県弓道連盟 佐久支部

教士六段 植松 守(72歳)

令和元年11月15日(金)

ご逝去されました

ここに謹んで哀悼の意を表し、お知らせ申し上げます。

つづら

記憶に残る

今回号を皆様が読まれる頃は、そういえば...と記憶になっていくかと思いますが、ラグビーの日本チームが八強に入って盛り上がりました。なにせ『わかラグビーファン』ができたほど。流行語にもなるくらいに『ワンチーム』という単語がこちらで聞かれました。例えば東京オリンピックのマラソン競技が北海道に移る事に対する会議内でも「私達はワンチームですから云々」と発言があったほどでした。個々の力は小さくても、それがまとまれば大きな力となる。その力が皆が同じ方向を向いていなければ前には進めない、成果も現れない、達成感も生まれません。大なり小なり皆が同じ方向を向くという事がどれだけ大切な事なのかを体現して見せてくれたのが、あのラグビーの日本チームだったし、日本開催のラグビーワールドカップという大会でした。まさに記憶に残る大会とチームでした。

昔 ある人が私にこう言いました。『記録に残る選手ではなく、記憶に残る選手になりたい』それは大会も同じ。私も幾度となくチームを組んで大会に参加させて頂いたり、大会の係員として運営に携わらせて頂きましたが、それは皆様も同じだと思います。二〇二七年には長野で国体が開催されます。準備が進められている事は皆様もご存じの事。そういえばあの時は...と記憶に残る大会になるようワンチームになって同じ方向を向いて『わかラグビーファン』ができるようになって欲しいと思います。そして、その人達が弓道を始めてくれて、弓道人口が増えたらいいですね。

飯伊支部 木村由紀子